最終回　量より質が重要！被害を減らす捕獲とは？

農研機構　畜産研究部門　動物行動管理研究領域　堂山宗一郎氏

全国では農作物被害防止を目的とした有害捕獲などでイノシシを約 40 万頭、シカを約 60 万頭捕獲しています。しかし、たくさん捕獲しているのに被害が減っていない地域も多くあります。実は捕獲の数よりも、どこでどんな個体を捕まえたかといった捕獲の質が、被害減少に繋がることが分かってきました。

農作物被害を減らすためには、田畑を荒らしている犯人（加害個体）を捕まえなければなりません。すべてのイノシシやシカが犯人だ、と思う方もいるでしょう。実は、被害を与えているのは特定の個体だということが分かっています。

「犯人は現場の近くに潜んでいる」というどこかで聞いた台詞と同じく、加害個体は農地周辺の藪や茂みを生活拠点にしており、山や林の奥にはほとんど移動しません。それとは逆に、農地から離れた場所で生活している個体は、農地に出ることなく暮らしています。イノシシの調査では、農地に現れる個体が、そこから 200m 以内に生息していることが明らかになりました。シカはまだわからないことも多いですが、イノシシと同様に加害個体は農地周辺からあまり動かないという結果も出ています。このような加害個体の特性から、農地から離れた場所でたくさん捕獲しても被害はあまり減らないということです。

残念ながら、農地から離れた場所で有害捕獲をしている方がまだまだいます。有害捕獲では、たくさん捕獲することを目標とせず、加害個体を上手く捕まえることを意識してください。